

第69回 大沢地区まちづくり会議 結果

日 時 令和4年5月17日(火)19:00~20:50

場 所 大沢公民館 大会議室

出席者 17名(4名欠席)

傍聴者 0名

1 開 会

2 来賓あいさつ

石原区長のあいさつ。各委員からの自己紹介。

3 新年度役員の選出

代表は佐藤地区自治会連合会長、副代表は大貫君夫地区民生委員児童員協議会長、松井地区社旗福祉協議会長及び大貫 勲公民館長が就任した。

4 報告事項

(1) 地域ケア会議について

包括支援センターの松下代表から「大沢の風」と「センターだより」について説明があった。

ケア会議では、課題となるケースを抽出し、支援に向けた意見交換をしていることや、地域内の高齢者は、コロナ禍で閉じこもり傾向になっており、トイレや着替えが困難になった人が増えており、中には精神的に疲弊してしまい、緊急搬送される程大変な状況にある人もいることなどについて報告と、意見や要望があれば包括支援センターに問い合わせしてほしいとの呼びかけがあった。

(2) 大沢地区内主要幹線道路の改善要望書（改訂版）について

佐藤代表から、昨年9月28日に市道路部長に直接手渡した要望書に対し、市から回答書が届いた旨の報告があった。

また、事務局から、道路交通部会で市の関係部署と回答に関する意見交換を行い、その結果がまちづくり会議へ報告される予定である旨の説明があった。

(3) 大沢地区防災計画について

事務局から、昨年11月の本会議で設置された地区防災計画に係る検討委員会の令和3年度の会議結果について報告があった。また、検討委員会に意見等があれば、5月中に事務局へ提出するよう依頼があった。

5 議 題

(1) 令和4年度活性化事業交付金について

「大沢地区子育てマップ事業」について、地区社会福祉協議会の菅原広報部長と浦濱推進員から、大沢地区において平成25年に市内で初めて「子育てマップ」を作成した当時から、大沢地区の15歳未満人口が20%近く減少している中、子育てがしやすい環境を整えるために、医療機関や子育てサロン等の紹介などの情報発信が重要であることや、社会状況の変化に伴うリニューアルの必要性等について説明があった。

「地域のための防災対策事業」について、事務局から、大沢地区では、自主防災隊長である自治会長が毎年のように交替してしまうことなどから、危機意識は高まりつつあるものの、地域の防災全般に対する知識が不足しがちであるため、地区防災計画の修正を機に、地区内の危険箇所や防災拠点などの情報や災害対応の基本的な行動を示す防災啓発資料を作成する必要性等について説明があった。

また、昨年度に申請があった事業の概要について、事務局から次のとおり報告があった。

- ① 「地元の冊子作製及びイベント実施による地域活性化事業」については、補助事業の最終年度に作製した冊子が委員に配布され、今後、地域行事と合わせて読み聞かせ等に活用していく。
- ② 「旧笹野区住宅の保存活用事業」については、補助事業の最終年度であったが、新型コロナウイルス感染症の影響でスケジュール等に大きな影響があった。次年度は、文化財保護課と施設の維持管理に係る委託契約を交わし活動を続ける。
- ③ 「こども食堂さくらんぼ事業」については、令和4年度から、市社会福祉協議会からの補助を受け事業を行う予定である。令和3年度は、31回、延べ1,062人の子ども達に弁当を提供した。

(2) 令和4年度まちづくり懇談会について

本年度のまちづくり懇談会について、新型コロナウイルス感染症は減少傾向あっても、市の業務継続計画に基づく体制が解除されていないことから、懇談会実施が真に必要なか、各地区で再度検討して欲しいという市からの依頼に対し、意見が交わされたが、現状で中止という判断は難しく、実施の方向で進め、感染症の拡大状況により判断することとされた。また、次回はまちづくり懇談会の議題について検討することとなった。

(3) その他

特になし。

6 閉 会

松井副代表。

以 上